

| | | | |
|---|--|---------|----------|
| 年度 2009 学期 後期 | 曜日・校時 火曜・2校時 | 必修選択 選択 | 単位数 2 単位 |
| 授業科目 (英語名) | 人間と文化(文化人類学:ヒト社会のオペレーション・システムについて) Humanity and Culture (Cultural Anthropology) | | |
| 対象年次 | 1・2 年次 | 講義形態 | 講義 |
| 対象学生(クラス等) | 全学部 | 科目分類 | 人文社会科学科目 |
| 担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 増田 研 (ken-m@nagasaki-u.ac.jp、研究室・環境科学部 410 号室、095-819-2734) | | | |
| 担当教員(オムニバス科目等) | | | |
| 授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ヒト社会は文化によって作られて運営されている。その文化は、世界中で驚くほどの多様性を見せるが、同時にヒト社会共通の普遍性も備えている。ヒト社会を成り立たせる基礎の部分を支えるものとして、文化は政治・経済・宗教・家族といった制度を支えている。 本講義ではこのようなヒト社会の基盤をなす文化の働きについてのさまざまな事例を紹介しながら、文化人類学の基礎を身につけ、文化の普遍性と多様性についての一般的な理解を得ることを目標とする。 | | | |
| 授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 1 回目 ガイダンス：文化人類学と異文化理解についての概説 2 回目 文化人類学の歴史 (19 世紀～20 世紀) 3 回目 機能主義人類学と人類学的フィールドワーク 4 回目 文化相対主義 5 回目 家族・親族論(1) 6 回目 家族・親族論(2) 7 回目 ジェンダーとセクシュアリティ(1) 8 回目 ジェンダーとセクシュアリティ(2) 9 回目 交換論(1) 10 回目 交換論(2) 11 回目 呪術・宗教論(1) 12 回目 呪術・宗教論(2) 13 回目 民族論(1) 14 回目 民族論(2) 15 回目 総括 | | | |
| キーワード | 文化、文化相対主義、異文化理解 | | |
| 教科書・教材・参考書 | 教科書は用いない。毎回、レジュメを配布する。 (参考書)奥野克巳・花渕馨也(編)『文化人類学のレッスン：フィールドからの出発』学陽書房 | | |
| 成績評価の方法・基準等 | 毎回のレスポンスペーパー(40%) + テスト(60%) | | |
| 受講要件(履修条件) | | | |
| 本科目の位置づけ/学習・教育目標 | 関係する専門科目, 資格等: | | |
| 備考(準備学習等) | | | |